

事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

災害の種類	公衆災害:第三者物損事故	工事区分	河川維持工事
事故内容	バックホウを隣接住宅の塀等に接触	被災者	性別・年齢
被災状況	ブロック塀、アルミフェンスの破損	被災者	職業

〔災害の概要〕

□現場の状況：

掘削作業に伴い0.45㎡バックホウを旋回した。

□事故の概要：平成26年5月10日(土)11時頃

バックホウの後方部を隣接する住宅のブロック塀及びアルミフェンスと接触し、ブロック塀等を破損させた。

□安全対策の有無 無

〔再発防止策〕

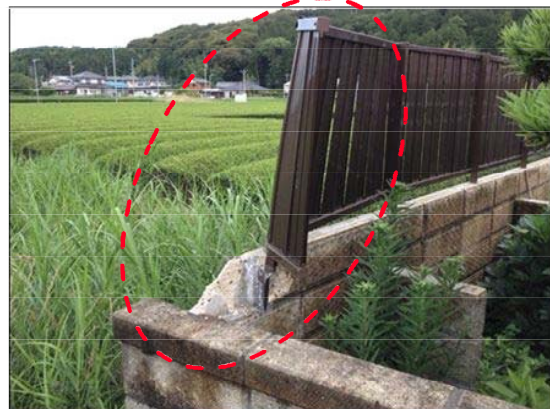
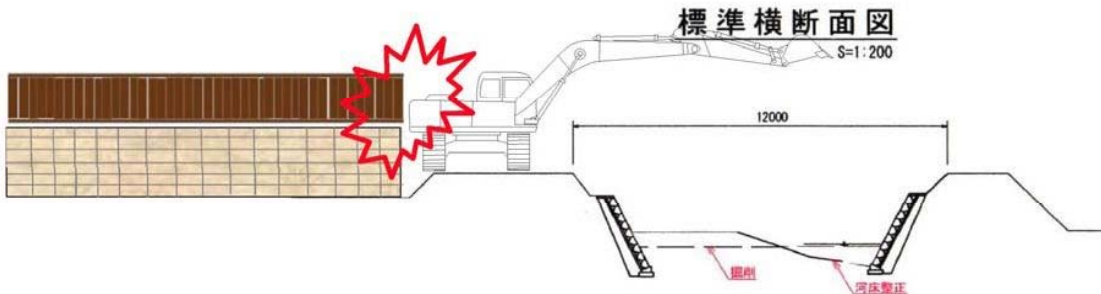
□問題点：

- 1-① 誘導員を配置していなかった。
- 1-② 危険箇所の認識が不十分であった。
- 2 監督員へ事故発生連絡が速やかにされなかった。

□防止対策：

- 1 作業前に作業従事者全員で想定される危険事項を話し合い、注意すべき箇所を共有する。
 - ①誘導員を配置し、手旗等の合図により確実に接触事故防止を図る。
 - ②作業に先立ち重機旋回範囲を十分確認し、障害物が確認された場合は、看板及びバリケードをを設置し、危険箇所を明示する。
- 2 再発防止の文書を関係団体へ通知し、事故発生後の速やかに連絡を行うことを徹底させる。

〔事故の状況が分かる写真または図面〕



事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

災害の種類	公衆災害：第三者物損事故	工事区分	用水路新設工事
事故内容	下水道管 破損	被災者	—
被災状況	三島市衛生プラント圧送管漏水 (汚水処理作業への影響は無し)	性別・年齢	—
		職業	—

〔災害の概要〕

□現場の状況： 農業用水(排水路)の新設工事で、市道を横断するBOXカルバートを設置するため、道路の床板橋梁の取り壊しと掘削作業を行っていた。

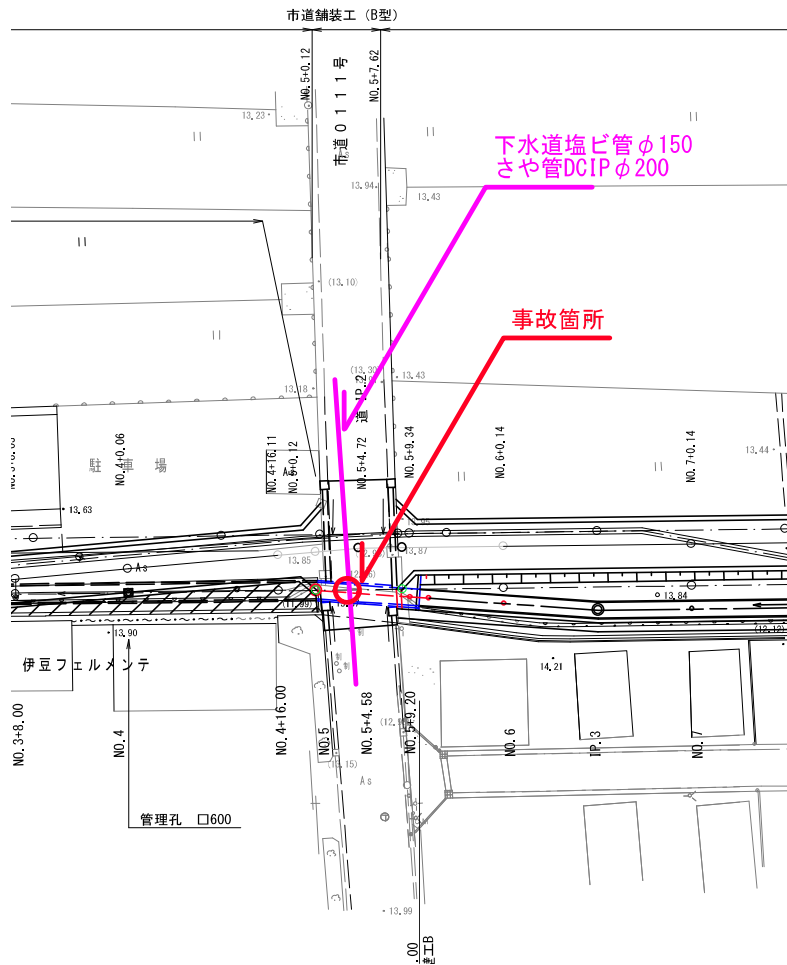
□事故の概要： 平成26年12月1日(月曜日) 15時30分頃
市道の床板橋梁取壊し時に出現した管路(塩ビ管：φ150、さや管：φ200)を切り回しをしていた上水道管と判断し、切断したところ、管から漏水が発生した。
市下水道課による現場確認の結果、衛生プラントの下水道管と判明した。

□安全対策の有無 有 (工事区間の埋設物調査の実施、特記仕様書への記載)

〔再発防止策〕

- 問題点：①地下埋設物調査が不十分であった
②現場状況から出現した管路を上水道と思い込んだことが原因である。
③発注者への連絡の遅れ。(事務所への連絡は、事故発生から1時間30分後)
- 防止対策：①十分に事前現地調査を行う。(埋設物の管理担当ごとに確認する等)
②思込みや先入観で対応せず、違和感を感じた場合は必ず再確認をする。
③事故や予期しない事態が発生したら、連絡網により速やかに報告をする。

〔事故の状況が分かる写真または図面〕



事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

[事故の状況が分かる写真または図面]

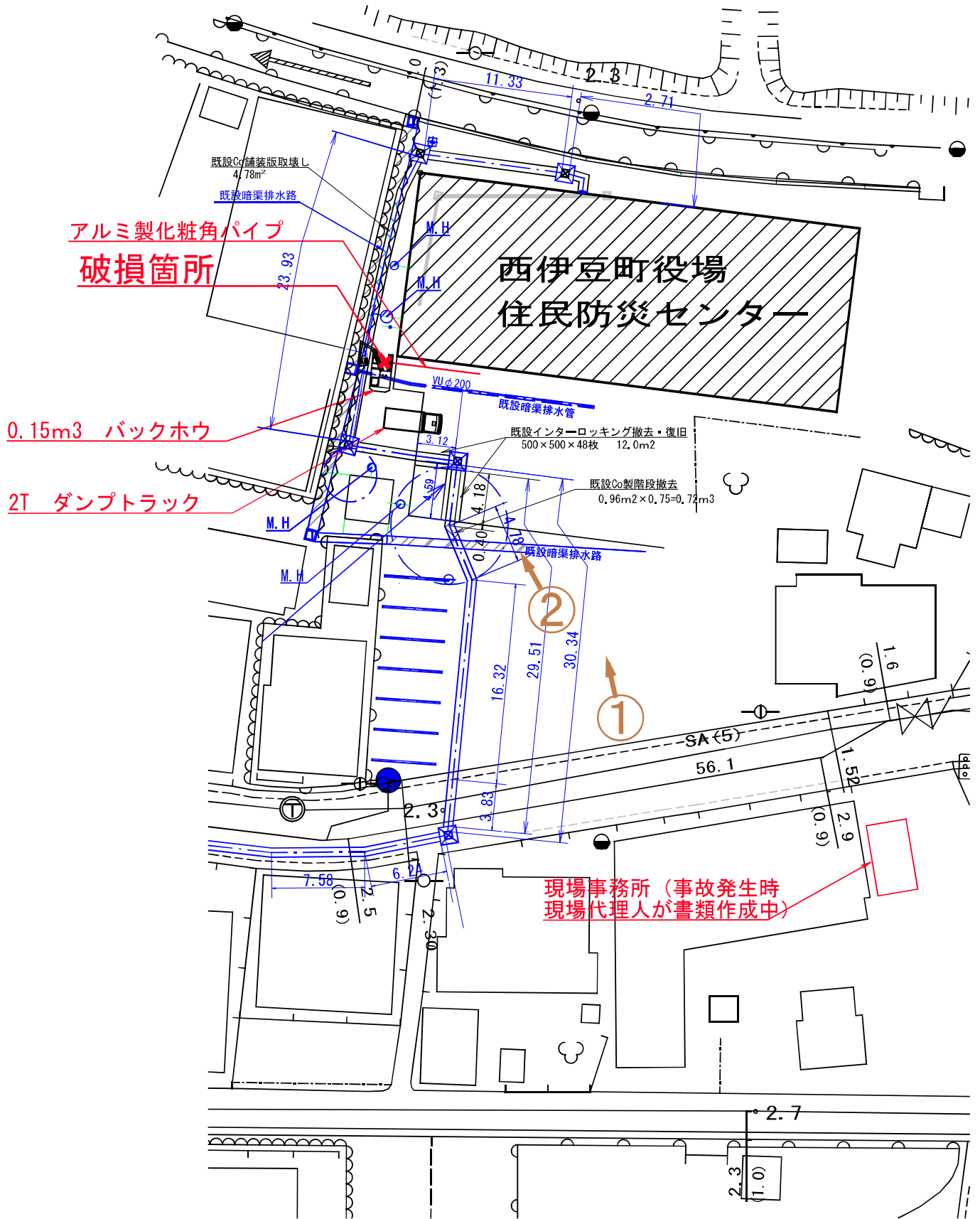


事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

災害の種類	公衆災害：第三者物損事故	工事区分	掘削工	
事故内容	西伊豆町宇久須防災センター2階外側アルミ柵の損傷	被災者	性別・年齢	—
被災状況	アルミ製化粧パイプ9本		職業	—
<p>〔災害の概要〕</p> <p>□現場の状況： 津波高潮防災ステーション整備として被制御所と水門・陸閘を結ぶ、通信管路を埋設する工事で、被制御所を設置する西伊豆町宇久須防災センター（兼西伊豆町宇久須支所）の敷地内で掘削作業を実施していた。</p> <p>□事故の概要：平成27年 2月 3日（火曜日） 管路埋設後のコンクリート舗装復旧のため、小型バックホウにて路盤材をすき取り、背後のダンプトラックへ掘削土を積み込む作業を実施していた際に、旋回させたバックホウのアーム背面が近接建築物（西伊豆町宇久須防災センター）2階外側のアルミ柵端部に接触し、柵部材を一部損傷させた。</p> <p>□安全対策の有無： 無</p>				
<p>〔再発防止策〕</p> <p>□問題点： ① 事故当日は、作業前のKY活動において、周囲の安全確認を行うよう申し合わせていたが、見張員を配置しておらず、作業員相互での安全確認となり、注意が行き届かず事故が発生してしまった。 ② 施工計画書に記載した安全管理の内容が不十分であった。 ③ 作業員による作業周辺への注意が不足していた。</p> <p>□防止対策： ① 障害物等が近接する箇所では、見張員を配置し、重機の動作前にオペレータから合図して見張員の確認を受けたうえで動作することを徹底する。 ② 障害物にリボン等の目印を設置し、障害物を見落とさないようにする。 ③ 公道上で作業する際には、交通誘導員を配置する。 ④ 掘削作業において、見張員に埋設物の有無を監視させる。 ⑤ 歩行者及び車両が工事箇所に進入しないよう、赤色灯を取り付けたバリケードで囲う。 ⑥ 掘削作業を行った場合は、当日中に埋戻しを行い、やむを得ず、段差が残る場合は、鉄板を敷設する。 ⑦ 毎月の安全訓練でヒヤリハット事例や工事事故事例集を活用し、安全意識の向上を図る。 ⑧ 工事における事故が発生した場合は、速やかに発注者及び関係者に報告する。</p>				

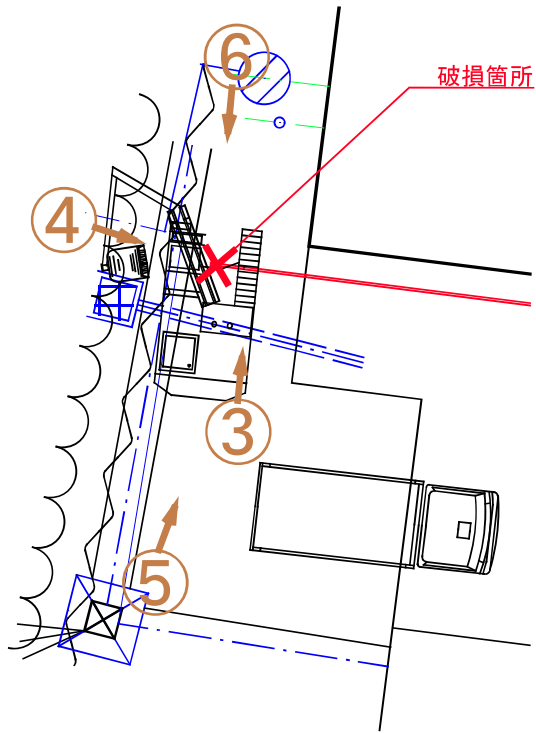
位置図

(写真①～②撮影位置図)

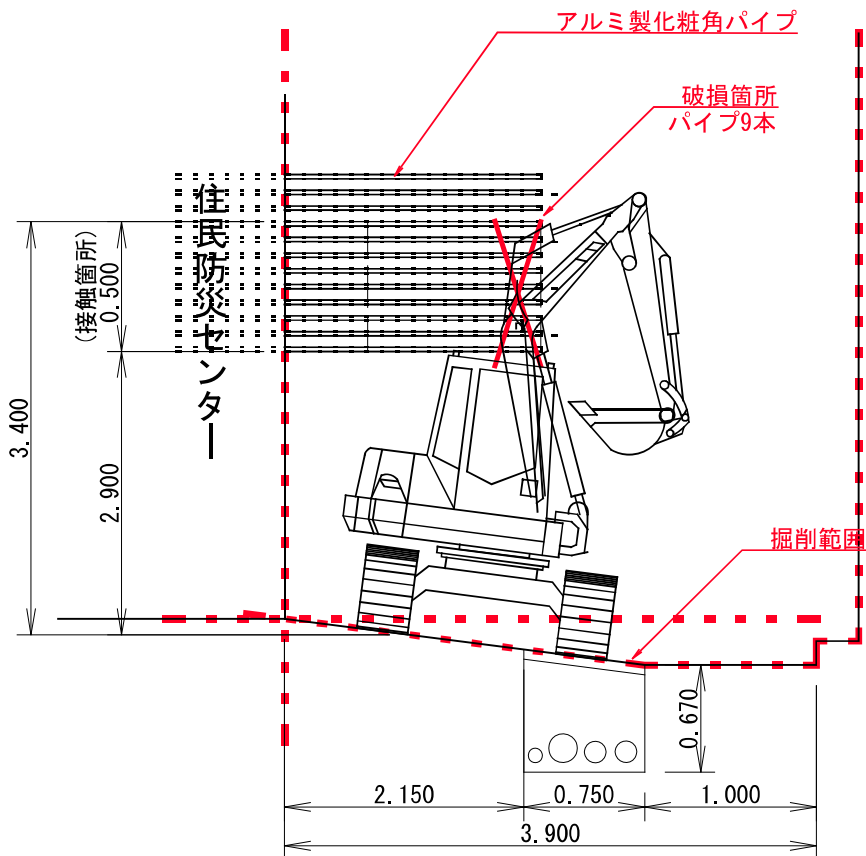


平面図

(写真③～⑥撮影位置図)



断面図

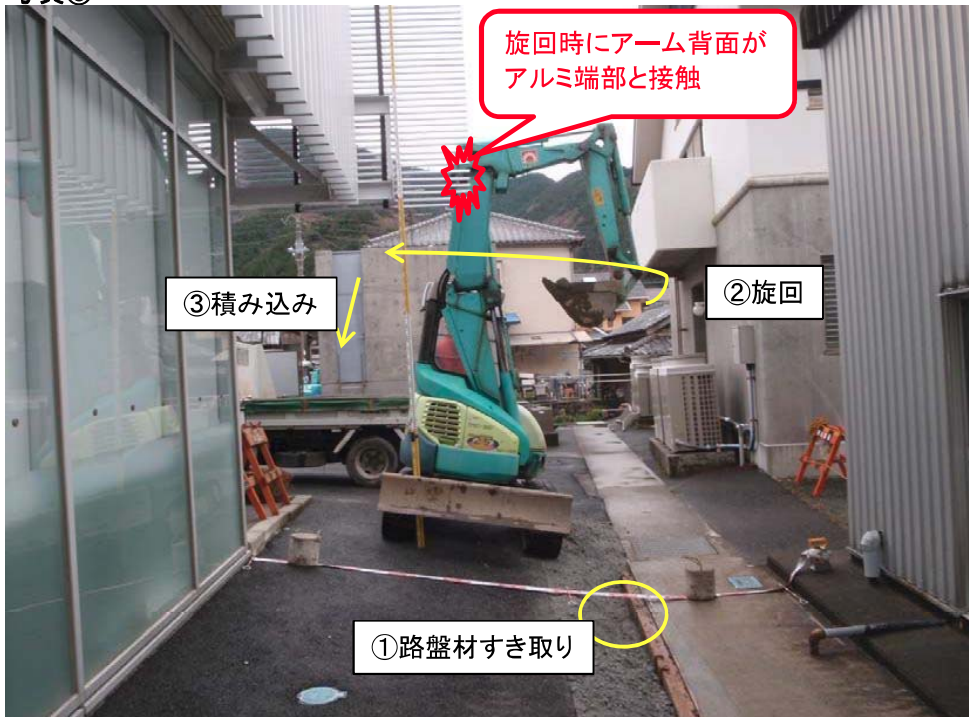


事故状況写真

写真⑤



写真⑥



事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

災害の種類	公衆災害・第三者物損	工事区分	河床掘削工事
事故内容	バックホウが移動中、架空線に接触し、電柱を破損	被災者	性別・年齢
被災状況	電柱の損傷	被災者	職業

〔災害の概要〕

□現場の状況：

河床掘削完了後、河川管理用道路の不陸整正を行うため、管理用道路上を移動していた。

□事故の概要：平成26年2月14日(土曜日)

バックホウ(0.8m³)が、5.3m上空の電柱支線に接触し、電柱を損傷させた。

□安全対策の有無 当日朝の作業ミーティング有(支線についての注意喚起無)
支線箇所の視覚的注意表示無

〔再発防止策〕

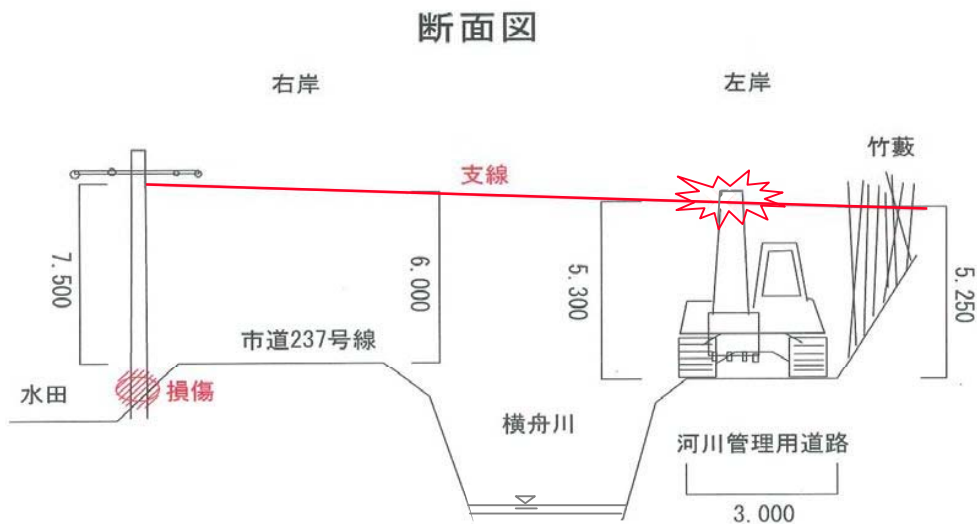
□問題点：

- ①不陸整正の具体的な作業内容の指示が不十分であった。
- ②重機誘導員を配置していなかった。
- ③支線があることを忘れ、作業箇所へ移動してしまった。
- ④移動する際に周囲の確認を怠った。
- ⑤架空線表示をしていないため、支線の位置が明確になっていなかった。
- ⑥施工上の注意点を作業員同士で共有できていない。

□防止対策：

- ①当日作業について、綿密な打合せを行い、KYを徹底する。
- ②架空線表示を設置する。
- ③緊急安全衛生会議を実施し、協力会社も含め、安全意識の向上を図る。

〔事故の状況が分かる写真または図面〕



事故周知・再発防止〔平成26年度発生事例〕

〔事故の状況が分かる写真または図面〕

